

①旗掛松

治承4年（1180）、源頼朝は安房から上総へ兵を進めるため、東条広場（現・鴨川市広場）の松崎（待崎）に至り、この松に源氏の白旗を掲げて上総介平広常の到着を待ったとされる。このことから、この地を「待崎」と呼び、源氏の白旗を掛けた松は「旗掛松」と呼ばれるようになったと伝えられている。この松はその後、天保の旱魃で枯れたので、松のあった場所に石碑が建てられた。石碑の正面に頼朝公旗掛松、裏面に「文久2年（1862）秋9月これを建てる」と刻まれている。

②須賀神社（祭神は、須佐之男命・罔象女神・源義家）

祭日は旧6月6日。境内には山王神社もある。この地域では、「阿萬数珠」と呼ばれる仏事が行われていて、長さ数メートルの数珠と幣束を持ち「カーマンスズ・キレトラツナゲ・ツナイダトコロデ・ヨーイヤセ」と唱えながら、子ども達が家々をまわり、おひねりをいただいている習慣が現在でも続いている。

浄土宗では、僧侶や信徒が集まって、念仏を唱えながら千八十顆の大数珠を百回まわす仏事を「ひやくまんべん」といっている。

③永明寺（曹洞宗）

弘安2年（1279）に東条左衛門景信が創立。当時は「延命山南明寺」と称したが、寛永3年（1613）2月、雲嶺本庵和尚によって「永明寺」と改められた。同寺には、創立者である景信の位牌が納められている。境内には五輪石塔があり、西郷氏家臣の墓だと伝えられている。

④八幡神社（祭神は、菅田別命）

祭日は旧8月15日。由緒不明。慶長18年11月再建の棟札が残されている。境内には石の祠が三社（稲荷社・山神社・八雲社）ある。菅田別命は、日本神話に登場する伝説上の大王である応神天皇の名である。同社には武芸の1つである「流鏑馬」が昭和初年ころまで伝えられていたという。
★「永明寺向唐門」は、市指定文化財である。★五代伊八作「向拝の竜」が本殿にある。

⑤序神社（祭神は、オオヒルメノムチ）

祭日は旧9月14・15日。由緒不詳。ご祭神の別名は、天照大神である。同社には、治承4年（1180）に源頼朝が安房に逃れて、平家追討の祈願をこめたところ、後に祈願が成就したので、この地を伊勢神宮の神領として寄進したとの伝承がある。

⑥聖人塚

文永元年（1264）11月11日、日蓮聖人とその弟子・信者十余名が、安房国松原大路（現・鴨川市広場付近）において、東条景信等から襲撃を受けた事件を指して「小松原法難」と呼ぶ。この事件の際、日蓮聖人を救おうと殉死したのが、弟子であった鏡忍坊と天津の工藤吉隆だった。聖人塚は、殉死した工藤吉隆の墓。日蓮聖人はその死を悼み厚く弔った。明和年中に鏡忍寺住職日長和尚が塚上に一碑を建て、正面に「日玉聖人

（工藤吉隆の法号）、右側に「日隆聖人」（工藤吉隆の遺子で鏡忍寺の開基）、左側に「日暁聖人」（鏡忍坊の法号）と刻んだ。

⑦鏡忍寺（日蓮宗）

日蓮宗本山。「小松原法難」の際に殉死した鏡忍坊と工藤吉隆の菩提を弔うため、日蓮聖人が工藤吉隆の遺子に命を下して開創されたのが鏡忍寺の始まり。当初は二人が殉死した地に草庵を営み、妙隆山鏡忍寺と号した。後に、地名により、山号を「小松原山」と改称。鏡忍寺には、日蓮聖人ゆかりのものから、江戸期に活躍した地元出身の彫物大工、初代伊八作「鏡忍寺祖師堂の彫亥山」（市指定文化財）などが所蔵されている。

境内には、「小松原法難」の際、日蓮聖人の危機を救った鬼子母神が舞踊したと伝える「降神の槓」（市指定文化財）があり、この槓は樹齢約千数百年と言われている。また、「鏡忍寺向唐門」（市指定文化財）、明治の俳人「正岡子規」がこの地を訪れた際に詠んだ句を刻んだ句碑もある。

⑧和泉公会堂 登録文化財指定

和泉公会堂は、大正10年（1921）に建設された地区住民の共有建造物である。鴨川市域最初の耕地整理事業の完成を機に、和泉区の住民が一同に会する施設が必要だということで、建てられた記念碑的な建築物で、登録文化財に指定されている。瓦葺葺棟屋根で、正面中央は入母屋の車寄席と玄関を張り出した和風公会堂建築に共通した形態をとっている。

⑨男金神社（祭神は、天御中主命）

祭日は旧7月22日。創建年月不詳。享保20年（1735）に本社を再建。その後、明和5年（1768）と文久2年（1862）の2回、改修した。古来「妙見社」と称し、明治維新の後、現在の名に改められた。境内には他に二社あり、奥の社には伊弉册命、末社には大山祇命が祀られている。

⑩花蔵院（真言宗）

真言宗総本山と号す。本尊は観世音菩薩。創立年代は不詳。寺伝によれば、永祿元年（1558）に中興開山されたという。本堂には、三代伊八の作である「向拝の竜」が彫られている。

⑪八坂神社（祭神は、須佐之男命）

同社の伝承によれば、久保又右衛門という者が、自分の屋敷内に牛頭天王を祀り、家族だけでなく近隣の人々が参拝するようになり、京都の八坂神社祭神の牛頭天王分霊を迎え社殿を造営して氏神として祭祀したのが淀原であると伝えている。本殿には、三代伊八の作である「向拝の竜」が彫られている。

鴨川市教育委員会 生涯学習課 鴨川市郷土資料館
鴨川市横渚1406-1 電話 04-7093-3800
平成25年2月 鴨川市郷土資料館ボランティア作成